

電子図書館サービスの今後の展開

安達 淳

国立情報学研究所

2007年2月21日

NIIにおける学術コンテンツへの取組み

事業のねらい

学術コミュニティが生み出した情報の安定的な流通・蓄積・保存
学術コミュニティが必要とする情報の的確な提供



学術コミュニティ
(研究者、大学、学会、一般市民)



支援

最先端学術情報基盤 (Cyber Science Infrastructure: CSI)

ネットワーク + コンテンツ + 研究活動支援

コンテンツ領域においては、大学や学会との
密接な連携のもとで電子的学術コンテンツの作成、共有、保存を推進

NII-ELS

- 人文社会系も含む全学術分野の国内学会の雑誌や大学紀要の電子化
- 電子アーカイブとしての機能も担う
- ビジネスモデル構築
- 5,467雑誌、280万論文

NII-REO

- 大学図書館コンソーシアムと密に連携したアーカイブサーバ
- 学術e-journalの“last resort”
- 他のメタデータサーバからリンクされる全文情報の提供元として機能
- 1,775雑誌、340万論文

機関リポジトリ

- 大学図書館を核に特徴あるコレクション形成(57大学と委託契約)
- REOやELSとの連携
- オープンアクセスへの対応
- 複数アーカイブによる保全性確保

NII

NII + 大学図書館

ELS/CiNii: 背景と経緯

平成5年

データ作成開始

科研費によるデータ作成開始。通信学会，情報処理学会，電気学会からの許諾を得て実験的に

平成6年

モニター試行および試行運用

無料でのデータ提供，平成8年から学会と著作権使用料について協議開始

平成9年4月

電子図書館サービス開始

まだ課金せず

平成11年1月

課金開始

平成14年4月

機関別定額制導入

平成15年4月

PDFによる全文情報の提供

平成17年4月

CiNii (NII論文情報ナビゲータ)へ統合

今年度の成果

		平成17年度	平成18年度	伸び率
学術論文の電子化 推進	NII-ELS	260万論文	280万論文	108%
CiNii利用者・利用 件数の増加	機関定額ユーザ	582機関	674機関	116%
	個人ユーザ	4,454名	6,150名	138%
	検索回数	720万回	1,400万回	194%
	本文ダウンロード 数	160万回	310万回	193%
電子ジャーナル アーカイブ拡充	NII-REO	240万論文	340万論文	142%
機関リポジトリ構築 支援	機関リポジトリ委託 大学数	19大学	57大学	300%

電子ジャーナルへの発展の動向

NII-REO

公開を重視

日本語学術雑誌

- ・電子ジャーナル化自体が課題
- ・ビジネスモデルが弱体

→ J-Stage, 自学会サーバ

会員サービス重視

NII-ELS
since 1992

国際的学術雑誌

- ・英文誌, Impact factor重視
- ・SPARC/JAPAN
- ・Open Access, Green Journal等の検討要

→ J-Stage, 自学会サーバ、国際的ポータル

当初のELSのモデル

- ・Gray Literature (研究会資料など)を多く含む
- ・人文社会科学などすべての学問分野
- ・学術成果の公開を主目的
- ・必ずしも無料公開が原則ではない。
- ・学会へのインセンティブとモラルハザード
- ・学会作成PDFの最大活用

今後の考え方

成果公開と保存を重視

大学のニーズと動向と連携

学会の多様性、自主性を尊重

インセンティブとしての還元金

今後の電子化の考え方

□ 電子化の遍在化

- 学会自らが電子化し自前サーバで提供
- J-Stage , Journal@rchive

□ 重複投資の回避

- 学会作成PDFの活用
- 外部リンク

□ 今後の重点領域(NIIと大学図書館との連携)

- 大学等の学術コミュニティが必要とする文献
 - ◆ 例えば, 図書館間の文献複写が集中する分野の雑誌など
- 雑誌以外のグレイリテラチャー (灰色文献)

ELS/CiNii のめざすもの

□ 日本人研究者による論文を総覧するデータベース

- 海外の学術雑誌に発表された論文も含む

□ 本文情報への到達度を高める

■ 内部情報

- ◆ ELS (すでに実現)
- ◆ REO (Springer等の英文論文; 喫緊の課題)

■ 外部情報

- ◆ 学会サーバ
- ◆ 大学の機関リポジトリ
- ◆ JST (J-Stage, Journal@rchive)
- ◆ 海外出版社のサーバ (CrossRef, OpenURLなどを介して)

ELS/CiNiiの付加価値

- 引用索引の充実
- 科研費成果報告 (KAKEN) との連携
- 研究者単位での論文, 業績の一覧
- 評価支援
- 研究動向の俯瞰
- Web2.0的サービス
- フィードバック機能

学会へのお願い

□ アクセシビリティ向上のために

- 従量制課金から機関定額制への移行
- Embargo（アクセス不可期間の設定）の撤廃

□ 本文情報への到達度を高めるために

- メタデータと本文へのリンク情報の提供

□ 大学コミュニティとの共生のために

- ELS本文PDFの機関リポジトリ掲載許諾

共生モデル

